

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100173		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都北山の家		
所在地	京都市北区鷹峯光悦町32-1		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町村受理日	平成30年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&ijrvosyoCd=2690100173-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	平成30年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が安全に、穏やかに、暮らしていけるように、日々工夫し取り組んでおります</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は市内北部の閑静な住宅と由緒ある寺に囲まれた、緑が多く静かな環境の中に位置します。開設当初から事業所のガレージを地域の地蔵盆に開放することで、散歩や買い物途中に地域住民からの声かけが多くなっています。近隣の施設からは夏まつりやカフェのお誘いを受け、運営推進会議にも参加を得るなど交流を図っています。独自の「介護記録」には、一人ひとりの計画書の短期目標が記載されており、毎日目標が達成できているかを評価しています。更に、独自の「評価表」を活用して、日常生活動作や能力を評価、長期・短期目標の実践や達成状況、満足度などを数値化してわかりやすく評価することで、再アセスメントに繋がっています。協力医療機関とは24時間連携が取れる体制を構築しており、「受診表・往診表」を活用して医療情報もケアプランに反映させています。職員は情報の共有や職員間の信頼関係を大切に、館長を中心にチームとして入居者に寄り添えるよう努めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我々正本グループは、福祉、介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えると共に、地域の雇用を守り社会の安定に貢献します。これを毎週、朝礼にて読み上げ理念を共有できるように努めている。	法人の理念以外に事業所独自の理念を掲げ、朝礼で唱和することで周知しています。毎月のカンファレンスで理念の振り返りを行い、入居者が元気で楽しく過ごせるよう実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	向かいにある小学校での運動会、夏祭り、他施設の喫茶等に参加させて頂いている。	町内会に加入、入居者と共に回覧板を届けています。地域の防災訓練に入居者と一緒に参加、近隣の小学校からは運動会への誘いを受け、交流を図っています。又、ピアノ演奏会や出張の寿司屋さんによるボランティアの協力も得ています。	地域とのかかわりを大切に、地域に根ざした事業所という取り組みを実施しています。広報誌を作成し、入居者と地域との交流や事業所の取り組みなどを、地域に発信されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習会にて他施設、自治会地域住民の方々と交流している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4木曜日に実施している。	入居者、家族、自治会長、民生委員、近隣住民、地域包括、近隣の老健施設やグループホーム職員が参加して、運営状況の報告や意見交換を行っています。小規模施設の通所を増やしてほしいという要望や、サロンの開設や食事の提供などが行えないかという提案があり、前向きに検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北区支援課の担当者と連絡を取っている。	運営推進会議議事録は施設館長が直接役所の窓口に届け、顔の見える関係作りに努めています。行政主催の研修会にも参加するなど、日ごろから行政との連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の規定により、身体拘束ゼロの取り組みを実施している。	研修の年間計画に組み込まれ、研修実施後はレポートを提出することで、職員の意識づけを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。夜間は玄関を施錠、日中は防犯上各階の入口が施錠されています。希望時は、随時職員が対応して、外出支援を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の社内研修にて虐待防止について学び、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居中の利用者様について、業務の中で制度について関わりを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時等には新たに契約書を作成し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、意見要望があれば伺い、運営に反映させている。	面会時に随時意見や要望を聴き取っています。家族より外出希望があり、毎日近隣の散歩に出かけたり、買い物に出かけるなど運営に反映させています。麻痺のある方の家族より、食事摂取に関する相談を受け、自助具を提案し、自力での食事摂取が可能となりました。	面会時に聴き取りを実施されていますが、今後意見箱を設置されることやアンケートを実施されてはいかがでしょうか。更に、アンケートは本部宛に返信することで、意見を抽出しやすいよう配慮されることをお勧めします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議を実施して、意見や提案を聞き取る。	月1回の職員会議では、研修会開催や入居者の情報共有以外に職員の意見交換が実施されています。又、館長は日常的に職員の声を聴き取っています。物品不足時はすぐに対処されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にて資格取得などを推奨している。		
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会等に参加し、サービスの向上を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接にて聞き取りを行い安心して暮らしていただけるような関係、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面接を行い話し合うことにより信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば福祉用具等のサービスとも調整を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロア間の入居者同士の交流会や働きかけを行い人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡調整を行い、安心して暮らせる環境を提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は消灯時間までゆっくりと過ごしていただけるよう心掛け、外出レクではなじみの土地付近を通るようななどの工夫を行っている。	家族や入居前の担当ケアマネジャーから情報を得て、「その人となり」の把握に努めています。毎年アセスメントを実施することで、更なる把握を行い、関係継続ができるよう支援しています。美術大出身の入居者へは折り紙やぬり絵を、園芸が趣味の方へは、菜園の水やりを一緒に行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうことが無いように、常に声掛けを行い、入居者同士でかかわりあう時間がもて、楽しんでいただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約中と変わることなく相談、支援を行うことと理解している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接にて聞き取りを行い、ケアプランに反映させている。	日常の会話や新しい気づきの中から、一人ひとりの思いをくみ取り記録に残しています。近隣の寺にある墓にお参りに出かけたり、ドライブや買い物の希望を聞き取り、実施しています。又、入居者の意向は年間のレクリエーション計画にも組み込まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等に反映させ、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや経過記録により職員が周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施できている。	長期、短期目標の他に日常生活動作能力等が記載された、独自の「評価表」を活用し、3か月ごとにモニタリングを実施しています。更に、「受診表、往診表」を活用して医療連携を図り、カンファレンス開催時には入居者も参加して、意向を確認し、課題を検討するなどチームとして計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人本位の個々にあったプランを取り入れ、実施できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に密着し楽しく生活が送れるよう、地域の活動に積極的に参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2日の往診にて、医療面での支援を受けている。	入居時に説明を行い、協力医療機関へ変更される方もいます。協力医はかかりつけ医と医療連携を図り、緊急時は昼夜を問わず医師からの指示を仰ぐ体制が整っています。更に、週1回看護師の訪問を受け、24時間の連携体制も構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師等に連絡を取り連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、常に情報交換を病院関係者との信頼関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係各所と連絡調整を行い十分な支援ができるよう努めている。	入居時に説明を行い、同意を得ています。看取り研修が実施されていますが、ホームでの看取りはまだ経験されていません。終末期は協力医に相談して指示を仰ぐことができることで、家族との話し合いが取り行われました。	協力医療機関との連携が構築されていることで、看取りに向けた指針などを策定されることをお勧めします。又、重度化した際には、随時家族と話し合いを行い、同意書などで意向の確認をさせていただきます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人のマニュアルや社内研修にて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した、避難訓練を実施しており、消防署、自治体への報告を行っている。	消防署の協力を得て年に2回(内1回は夜間想定)避難訓練を実施しています。訓練の状況は運営推進会議で報告、地域からは防災訓練への声かけがあり参加しています。備蓄品は飲料水、粥などのレトルト食品、冷蔵庫内の食材を含めて3日間分を備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めながらも、丁寧な声掛け、対応を行うように努めている。	年間の研修計画に組み込まれ研修が実施されています。参加できなかった職員には、伝達研修が義務付けられていることが、議事録で確認できました。特に言葉掛けに配慮がなされており、礼儀を欠く言葉遣いはその都度注意することで意識付けを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できるような声掛けや、雰囲気、対応を行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて、支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を行い利用者本人に合わせた身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、職員が横につき参加していただくこともあり、準備、片付けについては毎食事ごとに協力していただいている。	昼食、夕食はメニューが決まっており、法人本部から届く調理済みの料理を温めて提供しています。朝食は入居者と共に買い物に出かけ、食べたいものを手作りしています。行事食や寿司職人出張の寿司、手作りおやつなども好評を得ています。入居者のできることを大切に、職員と一緒に役割を担っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材を提供し、個々に合わせた分量や形態に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施していただいている。夜間は入れ歯を保管させていただきポリデント消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は日中、全入居者がトイレにて排泄されています。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しています。その方に応じた声掛けを行うことで、日中は全入居者がトイレで排泄できるよう取り組んでいます。入院中はおむつ使用であった方が、退院後の支援でリハビリパンツに変更となりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談するとともに、食事面で野菜を多く採っていただけるような工夫を行うなど、便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、それぞれの希望に添えるように支援し、足浴も行ったりしている。	午前中に散歩や買い物など外出することで、入浴は午後を中心に実施しています。入居者の意向を尊重しながら、声かけにも配慮しています。疾患等で入浴が実施できない場合は、足浴や清拭するなど臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて、昼寝していただいたり夜間は、エアコンを使用し快適に過ごしていただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤説明書にて、確認を行うように努め、職員周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望に添えるように、レクリエーション等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は毎日の散歩や外レクのほか、他地域の様々な行事等にも参加させていた	緑が多い環境の中、近隣の寺まで毎朝散歩に出かけています。歩行困難な方には車椅子での散歩や、敷地内ガレージでの外気浴も行っています。更に、日常的な買い物や季節のドライブ、家族との外出や外食なども楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失予防のため、金庫で保管させていただいているのが現状である。希望され、必要なものは職員が買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、手紙や電話について対応を行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、貼り絵などの作品にも旬のものを取り入れたりしている。	リビング側は建物がなく、大きな窓からは明るい日差しが差し込み、カーテンで採光を調整しています。雛飾りや入居者の手作り作品、行事写真が華美にならずに飾られています。又、ソファで会話を楽しんだり、リビングのテーブルで脳トレーニングを行うなど、思い思いに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやいす等の配置等を工夫し必要があれば移動して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの物や、好きなものを持参していただき住み慣れた空間に近付け、希望された必要なものを購入したりしている。	馴染みのタンスや衣装ケース、伴侶を祭った仏壇を持ち込み、家族写真などを飾ることで自宅のような設えとなるよう配慮しています。各居室入口には自身の手書き絵馬や目印となるような作品が飾られています。毎朝ベッドを整え、窓を開けて換気を行うことで、心地よく過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒事故等につながるようなものは排除し安全を第一に生活していただけるよう支援してまいります。		